

平成27年度

橋梁技術発表会及び講演会

参加費無料
定員 **350** 名
申込先着順

会場 仙台国際センター2F 桜
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
Tel.022-265-2211

平成27年

日時 **11**

6 (金)

13:00~16:50

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 石井 孝

13:10~13:25

橋建協報告

広報委員会

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.寒冷地における鋼橋RC床版の 耐久性向上対策

床版小委員会 床版技術部会 江頭 慶三

14:05~14:15

休憩

14:15~14:55

2.製作技術の変遷と今後の展望

製作小委員会 製作部会 加藤 千明

14:55~15:35

3.震災時における補修・補強事例 ～応急対応から本復旧まで～

保全委員会 保全第1部会 福島 道人

15:35~15:45

休憩

第2部:特別講演会

15:45~16:45

東北の道路橋の老朽化に関する 取組みについて

国土交通省東北地方整備局
道路部 道路保全企画官
大村 敦



16:45~16:50

閉会の辞

橋梁技術発表会 実行委員会 委員長 上原 正

申込方法

- ① Fax. 022-262-4855 (裏面の用紙に記載)
- ② ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月下旬から)

申込期限

平成27年10月23日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 東北事務所
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-1-31(山口ビル)
高田機工内 TEL 022-262-4855

継続教育

CPDS認定予定

- ※東京地区は 10月 9日(金) 銀座プロッサムホール
大阪地区は 10月16日(金) ドーンセンター
北海道地区は 10月23日(金) 北海道経済センター
中部地区は 11月13日(金) 東建ホール
九州地区は 11月27日(金) レソラNTT夢天神ホール 開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿のPPT及び論文はホームページに掲載しますので、ご希望の方はダウンロードしていただくをお願いします。

アクセス



●仙台駅西口/バスプール9番乗り場より「仙台国際センター」行き、
「博物館国際センター前」下車(バス移動約10分、徒歩約1分)
710(宮教大・青葉台)、713(宮教大・成田山)、715(宮教大)、
719「動物公園循環(青葉通・工学部経由)」、720「交通公園」内営業所
のいずれかにお乗りください。

技術発表会概要

1 寒冷地における鋼橋RC床版の耐久性向上対策

寒冷地における道路橋RC床版は直接荷重を受けるだけでなく、凍結融解、水や塩化物の浸入など、様々な環境作用を受けることから、橋梁部材の中では損傷事例が多く、その補修工事が橋梁の維持管理コストの大半を占めている。特に東北地方の復興道路は、一時期に集中して整備が行われるため、同様の補修工事が集中しないよう高耐久性のRC床版が求められている。

そのような背景から、当協会既刊資料の「RC床版施工の手引き(平成22年版)」を補完する資料として新たに「鋼橋RC床版施工手順書」を取りまとめた。ここでは、手順書本文より寒冷地における劣化事例として凍害、塩害、疲労、および鋼橋の構造特性に対する配慮不足や施工上の不具合によるものを示すとともに、これらに対する最新の知見と施工時に注意すべき項目を紹介する。加えて、手順書で示した耐久性向上対策を取り込んだ実物大の試験体の実験結果を報告する。

2 製作技術の変遷と今後の展望

国内の鋼橋製作の歴史は、130年余りを数える。近年、原寸のCAD化、NC切断、シミュレーション仮組などIT技術活用に伴い製作精度は格段の進歩をとげ、複雑且つ芸術性を兼ね備えた橋梁も誕生してきた。また、鋼材の進歩に伴う溶接技術の発達、自動溶接機に代表される様々な自動化、非破壊検査の適用拡大等、新たな技術の導入も進んでおり、耐候性鋼橋梁に代表される長寿命化に向けての取り組みも、一層活発になりつつある。鋼橋製作の歴史について振り返るとともに、これからの課題について考える。

3 震災時における補修・補強事例

～応急対応から本復旧まで～

阪神淡路大震災以後、耐震基準の見直しに伴う耐震補強の効果により、先に発生した東日本大震災における鋼橋の被害は、津波によるものを除けば大きな損傷は少なかった。

しかし、我が国は地震国でありその発生頻度は高く、今後もその緊急な対策・対応、恒久的な補修・補強対策は必要不可欠である。また、橋梁の高齢化により保全の時代と言われている現在、震災時以外にも応急対応などが必要となるケースも予想される。

本報告は、過去の震災での経験を次に活かすために、応急対応から本復旧までの補修・補強事例を紹介するものである。

特別講演会

東北の道路橋の老朽化に関する取り組みについて

大村 敦

国土交通省東北地方整備局
道路部 道路保全企画官

一主な経歴一

平成15年 4月 東北地方整備局 交通対策課 課長補佐
平成17年 4月 東北地方整備局 磐城国道事務所 副所長
平成19年 4月 東北地方整備局 企画部 広域計画課長
平成20年 4月 本省 都市・地域整備局 地方振興課 課長補佐
平成23年 7月 東北地方整備局 国営みちのく杜の湖畔公園事務所長
平成25年 4月 東北地方整備局 総括防災調整官
平成27年 4月 現職

講演概要

わが国の道路ストック、とりわけ道路橋においては、今後、高齢化が大きく進展し、東北地方においても厳しい気象条件等と相まって高齢化・老朽化が進行していく傾向にある。

このため、厳しい財政状況を踏まえ、既存ストックの有効活用を図るべく、これからは、従来の事後保全から予防保全へと転換していくことが重要である。このような状況のもと、近年の道路橋の老朽化を取り巻く現状や課題と、東北地方における道路メンテナンスサイクルの本格的な実施に関する取り組み状況等について概説する。

FAX番号:022-262-4855

平成27年度

11月6日(金)

橋梁技術発表会

[東北地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無